

2026年1月4日（日）第二礼拝「幸せなエシュルン」申命記 33 章 26～29 節

人は幸せを探し求めます。多くのものを所有することや、高い地位につくことに幸せを感じる人が多いです。しかし、本当の幸せはイエス様の中にしかありません。イエス様を信じる人たちを、神様は幸福感で満ち溢れるようにしてくださいます。

第一番目、「私は愛されている」という思いが、イエス様を信じる人たちの心の中を占領します。イエス様を信じる人たちは喜び、平安、幸福感で溢れています。それは、「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ。」と言われ、主に愛されているからです。今日の本文には「エシュルン、イスラエル、ヤコブ」という三つの名前が出てきますが、これらは同一人物であり、ヤコブからイスラエルに、イスラエルからエシュルンに変わりました。エシュルンは、神様が呼ばれたイスラエルの愛称です。イスラエルは四十年間、水の無い、渴ききった荒野で生活をしました。天地万物を創造された神様は他にはなく、何かが起こったら急いで助けてくださるお方であり、雲の柱、火の柱で導き、守られました。そのようなイスラエルの民に、モーセは「あなたは幸せなイスラエルよ。」と信仰の宣言をしました。彼らは四十年の荒野の旅に勝利し、ついに「私は幸せな者だ」と言えるようになったのです。

第二番目、神様がどのように助けるかです。イスラエルの昔の名前はヤコブです。ヤコブは双子の次男として生まれました。長子の祝福は長男エサウが継承することになっており、ヤコブにはその資格がありませんでした。それで、ヤコブはエサウをレンズ豆のスープ一杯で騙し、更に兄に扮して父を騙し、祝福を奪ってしまいました。その後、彼はエサウから逃げ、ラバンの家に行きますが、そこで結婚詐欺に遭い、働きの報酬も幾度も変えられました。しかし、ヤコブは神様によって祝福され続け、財産も増えました。その後ラバンから逃げ、兄に再会する時、ヤコブは神様と格闘し、もものつがいを外され、もはや逃げることができなくなり、名前をイスラエルに変えられました。人を騙し、自分の身を守ろうとする利己的なヤコブを神様は選び、敵からいのちを守り、神の家に入れてくださいました。同様に、私たちはイエス様の十字架で罪が赦され、敵から守られ、もはや罪に定められることなく平安です。上は天からの露(神様の恵み)があり、下は神様の永遠の腕で守られています。私たちのうちには泉(聖霊の泉)が湧き、穀物(主の御言葉)と新しいぶどう酒(イエス様の血潮)で満ちます。私たちの過去、現在、未来のすべてにイエス様がおられ、神様が私たちの家となってくださいます。私たちは主に救われた民、幸せなイスラエル、幸せなエシュルンなのです。

第三番目、主が勝利へと導かれます。士師記 7 章で、ギデオンが敵陣に潜入した時、敵の兵士の一人が、大麦のパンのかたまりが一つ、ミディアン陣営にころがって来て、天幕が倒れたという夢の話をしているのを、ギデオンは聞きました。大麦のパンのかたまりとは、ギデオンの三百人の勇士のことです。ギデオンは少数の兵士と共に、ミディアンとその連合軍、約二十万人を打ち負かしました。主は勝利の剣です。全能の神様が大麦のかたまりのような私たちと共におられ、敵を打ち破り、勝利へと導いてくださいます。アーメン！